

カートリッジの交換方法

代表的な水栓のカートリッジの交換方法です。対象の代表展開図および部材の画像・工具と合わせてご確認ください。

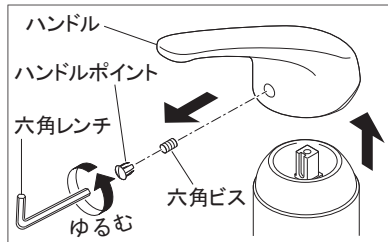
台付の場合

***作業の前に必ず止水栓を開めて止水してください。**

①ハンドルを取外します。

*取外し方につきましては、**ハンドルセットの修理方法(交換方法)**の資料をご参照ください。

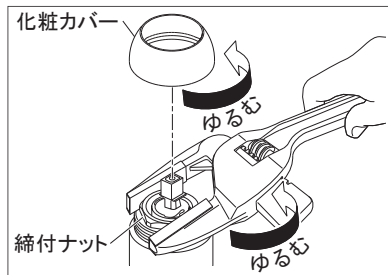
*右図はハンドルポイントがあるハンドルの場合を示しています。



②化粧カバーを反時計回りにまわして取外します。

③締付ナットに「モーターレンチ」をかけ、反時計回りにまわして取外します。

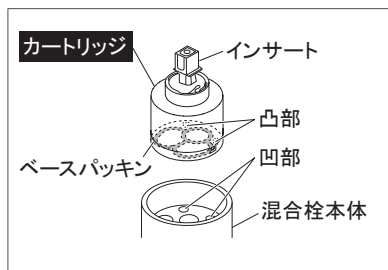
*化粧カバーと締付ナットが一体となっている水栓もあります。



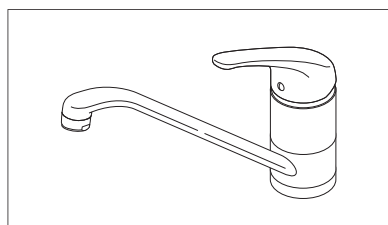
④古いカートリッジを抜取ります。

*カートリッジを抜取った後、水栓本体にベースパッキンが残っている場合には、ベースパッキンを忘れずに抜取ってください。

⑤新しいカートリッジの底にベースパッキンがついているのを確認してから、底の凸部が混合栓本体の凹部に合うように差込んでください。



⑥①～③の逆の手順で組直してください。



締付ナットは適度な力で締付けてください。締付けすぎるとハンドルの動作が固くなり、操作しづらくなります。

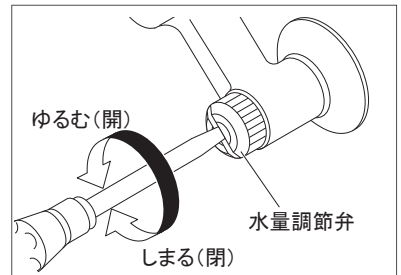
***交換後、水もれがないかを確認してください。**

壁付の場合

①湯・水側両方の水量調節弁を「マイナスドライバー」などで時計回りに締付けます。

*このとき、水量調節弁が何周まわって止まったのかを確認します。

*水量調節弁がないタイプの混合栓の場合は、止水栓または元栓を開めて止水してください。

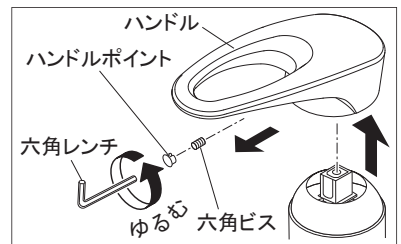


ハンドルを吐水状態にしても水栓から水が出ないかを確認してください。止水不良により水がもれ、家財に損害を与える恐れがあります。

②ハンドルを取外します。

*取外し方につきましては、**ハンドルセットの修理方法(交換方法)**の資料をご参照ください。

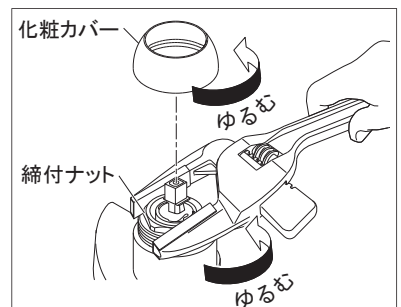
*右図はハンドルポイントがあるハンドルの場合を示しています。



②化粧カバーを反時計回りにまわして取外します。

③締付ナットに「モーターレンチ」をかけ、反時計回りにまわして取外します。

*化粧カバーと締付ナットが一体となっている水栓もあります。



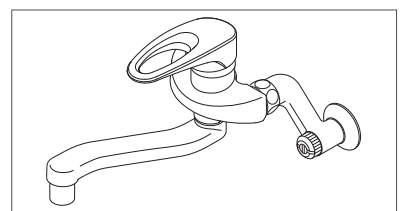
⑤古いカートリッジを抜取ります。

*カートリッジを抜取った後、水栓本体にベースパッキンが残っている場合には、ベースパッキンを忘れずに抜取ってください。

⑥新しいカートリッジの底にベースパッキンがついているのを確認してから、底の凸部が混合栓本体の凹部に合うように差込んでください。



⑦②～④の逆の手順で組直してください。



締付ナットは適度な力で締付けてください。締付けすぎるとハンドルの動作が固くなり、操作しづらくなります。

⑧ハンドルを止水状態にしてから、湯・水側両方の水量調節弁を「マイナスドライバー」などで①でまわした回数だけまわして開き、各部に水もれがないかを確認します。

*水もれが発見された場合は、水量調節弁を閉めて水もれする箇所を施工し直してください。

*水量調節弁がないタイプの混合栓の場合は、止水栓または元栓を開いてください。



水量調節弁を開く際は、ハンドルが止水状態であることを確認してください。止水不良により水がもれ、家財に損害を与える恐れがあります。